



生田流^{じゅうたそうきよく}地歌箏曲家 柳瀬 和子^{さん}

箏曲地歌・三曲界の発展に貢献したことに加え、学校での文化伝統の指導や、後進の育成などその多彩な活動が評価され、令和3年度「山口県文化功労賞」を受賞。そんな柳瀬さんを突き動かすものとは。

一人でも多くの方に 箏曲・地歌を届けたい

母のもとで

箏曲になじみのない方も、「お箏」と聞けばピンと来るのではないのでしょうか。柳瀬さんが箏を始めたきっかけは母の影響でした。

「母が箏と三弦(三味線)を教えており、私も10歳の頃手ほどきを受けました。高校を卒業する頃、母に内弟子に入りたいと伝えましたが、母は自身が苦労したのか、私は専門家になれとは言いませんでした。結婚して家を出て郵便局に勤めましたが、そのときに気が付いたんです。自分にとって箏が宝物だったのだ



▲箏曲といわれる箏の音楽と、地歌といわれる三弦の音楽、尺八の音楽を総称し三曲という。

と。家に宝物を置いてきて、しまったと思いましたが、そんなある日、柳瀬さんにとって人生を変える出来事が。「居眠りしながらでも箏や三弦を弾く母が、演奏会でミスをしたのです。私は『母が疲れている、退職して母の片腕になろう』と、専門家になることを決意しました」

地方の時代を創る

東京に各流派の家元が多いこともあり、どうしても地方より東京の方が活動が盛んになります。柳瀬さんは、二人の高名な指導者に47年間師事したことから、地方の方が舞台に立つ機会が多いことを強みに、地方での活動を盛り上げていきます。東京の人に負けないようにと、弟子の指導育成はもとより、学校などでの指導にも力を入れています。

「この歳でも、新しいものに挑戦したいと思っています。最近では音楽の方と一緒に演奏したりしています。『箏を伴奏に歌いたい』と言ってくださる方がいて。コラボ



どんな職員になりたいですか



市役所新規採用職員の皆さん

▶演奏会の様子

長女の山本裕子さん
次女の望月雅子さん
三女の藤井妙子さん
と一緒に。「演奏会の
他にも、半年に1回
は弟子たちに人前で
弾く機会を作ってい
ます」



◀学校での指導

「多くの子が目をらん
らんとして、没頭
していました。珍し
さもあるでしょう
が、やはり、自分で
弾いて良い音がする
からだと思います。
まさに『夢線に触れ
る』ということです」

▶世界スカウト
ジャンボリーにて
(2015年)
「箏は外国に行っ
てもモテるんですよ。
『ピュアな音楽』と
言われます」



意外と始めやすい楽器

箏は敷居が高い、と感じて
いる方も多いのでは。柳瀬さ
んはこう語ります。「私はね、
古典はこうでなければという
ような、そういう型を取っ払
おうと思っっています。例えば、
足の不自由な方が正座して演
奏することが難しければ、立
奏できますよ。皆が弾く後ろ
に立奏台を置いて演奏すれば
いいんです。昔はそんなこと

「レーションというのでし
ょうか。演奏会の後に音楽の方が
『すごく刺激になった』と言っ
てくださったって、とてもうれ
しかったです」

Editor's note 編集後記

■車で自転車を撮影して回りました。
「速い！楽しそう！花がきれい！海もきれい！」
一緒に参加しているような気分でした。廣野
■箏はもともと男性が弾く楽器だったそうです。
弾く人の体格によっても音色に違いが出るのだ
とか。試してみたくありませんか？宮村
■令和4年1月号のBELINDAさんに関する私の
質問...答えは26頁の市長コラムです。絵のタ
ッチでわかりますよね。西村

柳瀬和子 琴曲地歌演奏会
日時 5月22日(日)
一回目 12時
二回目 16時
場所 生涯学習プラザ
詳細 柳瀬さんへ
☎ 080-2368-6348

「始めたかと思っただけが
「始めたいと思っただけが
チャンスなんです。80歳でも
90歳でも、お教えしますよ」
これからどんな活動をされる
のでしょうか。活躍が楽しみ
です。」